別記様式第４号

２０２１年度 独創的研究助成費 実績報告書

２０２２年　３月２５日

<table>
<tr><td>報　告　者</td><td>学科名</td><td>デザイン工学科</td><td>職 名</td><td>准教授</td><td>氏 名</td><td>朴　貞淑</td></tr>
<tr><td>研 究 課 題</td><td colspan="6">「国連持続可能な開発目標(SDGs)を軸とするウィズ・アフターコロナ時代の持続可能なコミュニティ創生と次世代の担い手育成」</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研 究 組 織</td><td colspan="2">氏　　名</td><td>所 属 ・ 職</td><td>専 門 分 野</td><td colspan="2">役　割　分　担</td></tr>
<tr><td>代表</td><td>朴　貞淑</td><td>デザイン工学科・准教授</td><td>サステイナブル住環境･福祉住環境</td><td colspan="2">総括･調査･分析･提案</td></tr>
<tr><td>分担者</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>究実績の概要</td><td colspan="6">国連持続可能な開発目標(SDGs)は、2030 年まで世界の全ての国・自治体が最優先で取り組む環境・経済・社会の調和の取れた持続可能な社会構築の大命題である。SDGs の醍醐味は「誰一人取り残さない」及び「大変革」にあり、大学は次世代の担い手を育成するミッションが求められている。
日本政府は、SDGs の積極的な戦略的展開として全自治体を対象とする「SDGs 未来都市」を制定し、2024 年までに累計 210 都市の選定を行う計画である。
岡山県岡山市と真庭市、西粟倉市、倉敷市は[SDGs未来都市]に採択しているが、岡山県は、誰もが元気で学び合い、生涯活躍するまち岡山の推進を掲げており、令和5年までの第8期地域包括ケアシステムを策定している。岡山県では、一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が年々増加し、過疎、少子高齢化が著しく進んでいる。それに伴い、空き地・空き家も増加し、高齢者や障がい者を含む地域住民が住み続けられる安全・安心、かつ快適に暮らせる生活の質と価値を保った、ライフスタイルや将来のライフステージの変化に対応出来る持続可能なコミュニティ創りが必要不可欠となる。「持続可能なコミュニティ」は、互いに支え合いながら暮らせるまちであることから、SDGsの17つの目標のうち、目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標11「住み続けられるまちづくりを」に相応でき、産官学民の協働による地域コミュニティを形成することが求められていることから、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の成功事例となる。さらに、次世代の担い手の育成において、コミュニティを学びの場とした実践教育の成功事例となることから持続可能なコミュニティ創生の担い手育成は目標4「質の高い教育をみんなに」トップランナーとなることが期待できる。

写真：岡山市における SDGs を軸とする持続可能なコミュニティフィールドワーク</td></tr>
</table>

※ 次ページに続く

研究実績の概要	本研究は、これまでに行われている持続可能なコミュニティを含めて、コロナ禍からの復興を目指した、ウィズ・アフターコロナ時代を先取る戦略的視点から行う。 **本研究は、次の３分野の調査研究を行った。** １） 前年度の研究から得られた知見より、高齢者の福祉住環境における生活の質の向上と健常者だけでなく、高齢者や障がい者にも災害に強いまちづくりの基本的要素として、車イスなどが通行できる有効幅の確保、使いやすい防災マニュアルの作成の調査を行った。具体的に、共生型ユニバーサルデザイン、適切なバリアフリー、目的地へのアクセシビリティ、ハード及びソフトの両面から実態の把握を行った。 ２） 「SDGs 未来都市」に採択れている、岡山市を含む内外の先進事例研究を行い、空き地・空き家など地域資源を活かした持続可能なコミュニティ提案を行った。 ３） 持続可能な開発目標(SDGs)の 17 つの目標のうち、目標 4「質の高い教育をみんなに」を基軸とし、提案を行った。 写真：持続可能なコミュニティ創生ワークショップの様子
成果資料目録	